

多様な森林づくりに向けて～森林施業技術研修～

【森林整備課・計画課】

7月9日から11日、「森林の多面的機能の発揮を重視するとともに、流域の特性や生物多様性保全に配慮し、目標型に応じた森林の管理経営を行うため、多様で低コストな森林施業に関する知識及び技術を習得させる」ことを目的に局署の職員10名に対し森林施業技術研修を実施しました。

一日目は、森林・林業基本法や森林・林業基本計画等につれながら、望ましい森林の姿や針広混交林造成に向けた森林施業について森林整備部長が講話を行った後、計画課から多様な森林づくりと森林計画、技術普及課からニホンジカ被害対策の現状等の講義を行いました。

二日目には、東信署管内の国有林へ研修フィールドを移し、多様な森林づくりを推進するために設定したモデル林等において、植栽本数の低減の検証と合わせ、高木性有用広葉樹や天然生稚幼樹の育成も併用した針広混交林化の取組と、ニホンジカ被害対策の状況について、佐久平首席森林官の案内により確認しました。

最終日には、森林整備課から低コスト造林の推進、多様な森林への誘導手法、外部講師である信州大学大窪教授から、生物多様性保全の基礎について講義が行われました。

多様な森林づくりを進めるうえで、今後もこうした研修を実施していくこととしています。



モデル林で現地研修の様子

鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を開催！

【愛知森林管理事務所】

8月28日、当所において、職員21名が参加し、鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を開催しました。



実際に、くくりわなを現地で設置している様子

当日は、秋雨前線の停滞による悪天候で、急遽、現地開催から所内開催となりましたが、講習会では担当者から、法令、シカの生態、フィールドサイン、シカ対策や造林コスト低減の実証実験に関する説明を受けた後、二人一組で四苦八苦しながら、くくりわなを設置するための実技訓練と動作体験を繰り返し行いました。

昨年度から始めた委託捕獲・協定捕獲、ついで見回り、ジビエ利用に続き、12月からは、手探り状態で職員捕獲も開始しました。その結果、今年度も、捕獲成果をあげているところです。

引き続き、流域、地域と連携しつつ、職員のスキルアップに努めていきたいと考えています。